

B-3 色違いウールギャバジンに対する視覚的性能
文化と家政 ○松尾順子 成瀬信子

はじめに 織糸および布地の構成が同じで、色が異なる毛織物に対して、視覚による性能がどのように違うか、女性と男性を被検者として官能検査を行ない検討した。

試料および方法 23色の色違いウールギャバジン(2/2 \uparrow)の中から、PB系5色、YR系6色、R系3色を選び、各色系の中で組合わせて、Schifféの対比較法により官能検査を行なった。21才、22才の女性10名と21才から30才までの男性10名を被検者とし、自然光の下で、つやの大きさ、つやのよさ、表面の粗さ、明るさ、風合と、好みの6項目について5段階評価により調べた。検査のための試料面積は8.0cm \times 4.5cmで、たて方向から見る場合と、よこ方向から見る場合の2試料について検査を行なった。

結果 たて、よこ同じ太さの織糸で、2/2 \uparrow の毛織物だが、たて糸密度が、よこ糸密度より大きいため、たて方向から見る場合と、よこ方向から見る場合とでは異なり、つやの良さ、表面の粗さ、明るさは、よこ方向から見た場合の方が、たて方向から見た場合よりも各官能量の差が大きく判定されている。しかし、つやの良さ、好み、風合については、必ずしも一定方向からの検査時の方が差が大きいとは言えない。PB系よりもYR系の方が、好みの差が大きく、男性よりも女性の方が分散比が高く、はっきりと区別している。色味がつくと測色による明度と官能検査による明るさの対応はあまりよくない。明るさと、つやの大きさの相関性はみられ、毛織物なので、つやが大きいとつやがよいと判定された試料もある。また表面の粗さと明るさの関係は色味やどの方向から見るかによって、異なる傾向に見られる。